

おがけさん

75号

真宗大谷派
高徳寺通信

2016年夏号



お念珠のもつ意味



先日、法事の後の「お齋」(法事の後の食事)の際に門徒さんの家族の方から、「こんな質問を受けました。『どうしてお数珠を手にかけるのですか?』と。そこで今回はお数珠の話をいたしましょう。

お数珠は思ひ通りにいかないとイライラしたり、人とくらべたり、うらやましく思ったり、あこも欲しい、これも欲しいなど、自分は絶対に間違ってないと思ったり、なんでも自分だけこんな目に遭うのかと愚痴を言ったり……。そう、う衣のところのうじき(煩惱)が百八つあると言つて、その数珠(お經には八万四千あると書かれていて、つづめていくと108コ)・実際には珠の数は108コの半分の珠に紐を通して輪つなになつてゐるんです。

タイトルの絵のよう、一つ輪や二連のものと言つてます。お念珠には一つだけ大きな珠がありますが、その珠を「親珠」と言い、左右に一つずつある小さな珠を「二天珠」と言つうそです。例えば、親珠を自分とすると、すぐ隣がお父さん・お母さん、そして兄弟・姉妹(いる人は)、おじいちゃん、おばあちゃん、友人・学校の先生、会社の人たち、今、住んでゐる家を建ててくれた人たち、自分が着てゐる服を作つてくださった人、いろんな物を運んでくださった人、毎日我々が成長し、生きるために必要な食物や水、それを自分の口に入るまでの用意をしてくださった人たち、はたまた、太陽や雨、風や土、呼吸する空氣をきれいにしてくれる沢山の樹木、テリアなど、この地球上のすべてがこの念珠の一つひとつのが珠です。それらすべての珠が、ひとつ残らずみんな精一杯生きてほい」という阿弥陀さまの「願い」の「紐」で、

貫かれてる……それが“お念珠”です。

合掌して、お念仏申される方のほとんどが、亡くなられた、自分にとって大切な方のご縁を通してお参りされてることでしょう。そんな関係があつたのであろうか……そしてその方から、いったい何を願われているのかを尋ねていくことは、本当に大切なことです。お念珠を手にする時、合掌してお念珠を両手にかけてお参りされる時には、念珠の持つ意味、私が念じる前から私を念じてくださっているものがたくさんあることを、思い出したいのですね。



両手の親指は珠とくっつけるのがよろしくです。そんなことにも気をつけて日々のお参りをされてみてはいかがでしょうか。

※ 凡夫（ぼんぶ）は煩惱を身に具えていて、物事を正しく見る智慧（ちえ）の眼を持った者（もの）こと。

イベント名：仏法の温泉（1泊2日聞法の旅）

開催日：2016年 11月 15日(火)・16日(水)

会場：鬼怒川温泉ホテル

講師：牧野豊丸 氏

主催…真宗大谷派 東京教区

◆ 講師紹介（お詫び合わせ下さい）

福井・託願寺 住職

オ13回

『博多&唐津を味わう旅』

ご報告

① = 1日目

② = 2日目

③ = 3日目

旅のルート



今回は
柳川で鰻の
せいろ蒸し。
どんこ舟を味わ
い、焼きもの体験
として、博多の文化に
触れ、友達のおまに
お参りとして、唐津城
と散策し、呼子の竹舟
堪能して、玄海灘の
大自然を満喫、そして
太宰府天満宮を参拝
して参りました。その
ご報告をいたします。



5月 23日
1日
羽田空港 ↓
福岡空港 ↓

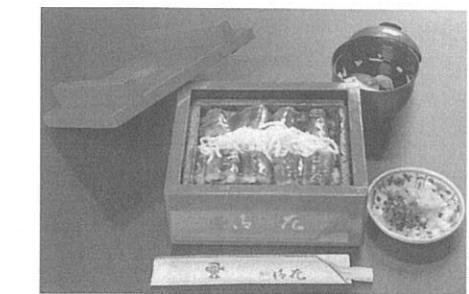
爽やかに晴れ渡った早朝、旅行会一行17名は、おかげさんで、羽田空港オーターミナル・南ウイング2Fの一番時計台の所で無事に落ち合うこと出来た。8:38分に離陸したJAL308便は、きっちり80分後に福岡空港に着陸した。到着ロビーに出ると、淨慶寺の大塚展彦住職とバスの運転手さんが出迎えてくれた。挨拶を済ませバスに乗り込み、10時半に出发する。九州自動車道を南下し、筑後川を渡り、久留米に入る。八女と柳川



◆明治の終わりの頃の流行の形式。正門と西洋館。

ここ柳川は福岡県の中でもお東（真宗大谷派）の寺院が多く、柳川は「北原白秋」（明治18年1885年生まれ、本名「隆吉」）が生まれ育ったまちで有名だ。佐賀県との県境に位置するので、佐賀県にあると間違われるようだが、柳川の人には、「そり」と言つて、かなり怒るらしい。（笑）12時、柳川藩主・立花邸「御花」に到着する。ここ「御花」は、柳川の正門と西洋館。

藩主代藩主・立花貞徹が家族と寛ぐために設けた屋敷を、14代当主・立花寛治は伯爵が邸宅と庭園に整えた。この辺りは「御花畠」と言られていたことから、親しみを込めて人々は「御花」と呼ぶようになつた。一行は早速、柳川名物の『鰻のせいろ蒸し』をいただくことに...♪



夕食を終えて、立花邸の庭園で、とても美味であった。満腹の一行は、それぞれ、国の名勝となつてゐる邸宅と「松濤園」を散策して楽しむ。約280本の黒松に1500個の庭石、石灯籠14基が配され、2つの島と多数の岩島が浮かぶ水面には野鳥が群れ遊びそつた。散策を味わつた後、江戸時代の柳川城の掘削をどんどん舟にやらねば

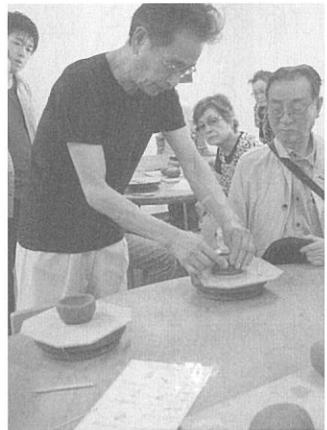
5月 23日
1日 目
↓
柳川 de "川下り" "蒲池窯" de 陶芸体験



◆船頭さん、歌のサービスもあった。



◆人が深山乗れる!



◆伊東征隆先生に作り方を指導していただきたい図



◆伊東家の皆様&スタッフさんとハイチーズ!
伊東さんご家族とスタッフの方たちで頂くお抹茶は格別であった!!

になり、本当に有ること難しおかげさんであった。

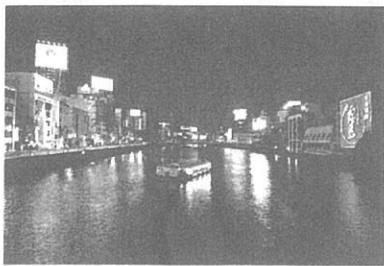
りと、スリルもあってあつと言
う間のお堀り廻りであった。
バスが待つ駐車場まで、ばら
ばら歩きないと、"もんぺ"を売
てるお店や、アイスキヤシデー
屋さんがあるので寄てみる。
甘いものはほどど口にしない
私も、思わず"抹茶"のアイス
キヤンデーを一つ…素朴ながら
深みのある抹茶の味が口に
広がり、一時、暑さを忘れさせて
くれた。続いて一行は、そろ
遠くない所にある"蒲池窯"へと向かう。
途中、川面に覆いつぶつたる
木々を避けたり、水面から1
mくらいの高さの橋をくぐった

その後、1973年に伊東征隆さん
が再興されて、現在は数件の窯
元が伝統的な技法を用いた器を焼いている。
縁があり、焼きものの体験をさせていたぐことが
出来た。元々牛小屋だった所を改造した
趣きのある工房で、轆轤を使ったり、手び
ねりで思ひ思いの作品を作つてみる。上手
くいかない所は伊東先生にフォローしても
うるので安心して没頭できた。出来た
人からは順に"お抹茶"をお座敷で頂戴す
る。伊東先生が焼かれたお茶碗

◆その後、1973年に伊東征隆さん
が再興されて、現在は数件の窯
元が伝統的な技法を用いた器を焼いている。
縁があり、焼きものの体験をさせていたぐことが
出来た。元々牛小屋だった所を改造した
趣きのある工房で、轆轤を使ったり、手び
ねりで思ひ思いの作品を作つてみる。上手
くいかない所は伊東先生にフォローしても
うるので安心して没頭できた。出来た
人からは順に"お抹茶"をお座敷で頂戴す
る。伊東先生が焼かれたお茶碗



◆お点前、頂戴いたします。
てまえ



【中洲】

那珂川と博多川に挟まれた中洲は、飲食店、スナックバーなどがひしめく九州一の繁華街として賑わう。天神駅と博多駅どちらからも歩いて10分程度。中洲を挟んで東が商人の街「博多」、西が武士の街「福岡」…。

伊東家の温かいおもてなしに後ろ髪を引かれる思いで、満池窓を後にして、一路博多を目指す。今日の宿はロードーミーイン・博多祇園^{くじやん} 中洲からほど近いのに、天然温泉に入れ数々ながらビジネスホテルだ。17時過ぎに到着。チェックインを済ませ各自フリータイム。旅行会初日、博多での夕食は、

5月23日	1日目
↓	柳川 → 博多
夕食 ↓	ホテル ↓ 中洲 ↓

◆ 博多もつ料理・幸・本店
とこ所を紹介した。非常によく、さばりして、なんと、スープが飲めてしまうのである。これには全員「ビックリ＆大喜び」で、どのテーブル（鍋）も完食！ 他にも「すもつ」焼きサガリなどに舌鼓を打つて至福の時を過ごさせて



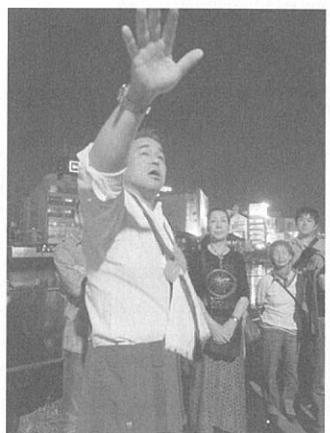
◆ 魅力的な屋台が軒を連ねる。



『福博で“あい橋』の上で全員でパチリ！

私の希望でもつ鍋となり、大家住職の先輩で博多の街は目を瞑^まって歩けるという。護山住職にお願いしておいた。

那珂川のほとりを歩く。建物のネオンや屋台の明かりが川面に映って、とても美しい。ときおり水上バスが観光客を乗せて通り過ぎて行く。ちょうど良いタイミングで満月が川の真上に顔を出している。川の両側の明かりが凄すぎて、昼間のように思える。全員での散策は終了し、解散する。これより後は、御説らいで…。博多の夜は更けて行った。



◆ 「このあたりはアヘ」と説明してくれる。

頂いた。腹ごなしを兼ねて、皆で「中洲」を散策してみることにする。護山信磨^{しのぶ}住職は、博多っ子でとても面倒見がよくて頼りになる48歳。お上りえ、状態の私は彼におんぶに抱っこである。



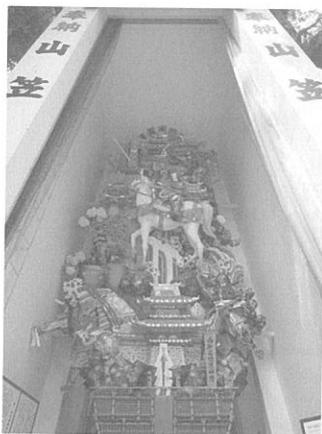
◆大塚住職と了吾、櫛田神社の前で。

5月 24日	日
2	日
フリー タイム	↓

ホテル集合 ↓

淨慶寺参拝

2日目の朝も良い塩梅に晴れ渡っていた。今回は2日目の午前中は「フリータイム」とさせていただいた。夜も朝も各々好きなように過ごしてもういたかったからである。早朝から散策をしたり、巡回に浸ったり、朝寝をしたりと過ごし方は様々である。私は、息子の了吾と大塚住職



◆櫛田神社の飾り山笠。

と3人で櫛田神社に参拝した。ここは古くから博多の氏神の総鎮守として信仰を集めているそうだ。有名な祭りに「博多祇園山笠」がある。13世紀の半ばに疫病退散を願って始まると言られている。毎年7月15日に開催される。市内があちこちに高さ10mを超える豪華絢爛な「飾り山笠」が建ち、7月から8月15の早朝に一番山笠が櫛田神社に入ると、他の山笠が5kmのコースを走る「追、山笠」でクライマックスを迎えるそうだ。

たまたまこんな面白、タクシーに乗った。レア!



間近で、走っている山笠を見てみたいものである。櫛田神社を後にし、近くの土産物店に入る。前から「氣になっていた餅」を購入する。これには「半面」(二の加煎餅)かの面)がオマケでついてくる♪“正体・身分を隠すため”と言われているが、面をつけることによって何を言っても無礼講にしよう…ということで350年くらい前から親しまれているそうだ。

一生付けっぱなしにしたい面食は大塚住職である(笑)昼食は大塚住職イチオシの水炊き“長野”で。食事の後は、櫛田神社の境内にある石碑で、この碑は「了吾の碑」といわれていて、了吾の死後、大塚住職が建てたものだ。了吾の死後、大塚住職が建てたものだ。





◆皆で「正信偈・同朋奉讃」
をお勧めする。

午後から、大塚住職が3年
前から入寺され、おあざかり
されてる淨慶寺さまにお
参りさせて、ただく。大塚
住職（旧姓・勝山さん）とは、
東京教区の駐在教導として
赴任して来て時から
縁で、お付き合いさせていた
だいて、今回ようやく旅行
会で門徒さんと一緒にお参り

5月 24日
2 日
至徳山 淨慶寺
参拝

りが出来たことである……。

お勧めの後、大塚住職にお

話をしていただく。

博多は圧倒的にお西(西本
願寺)のお寺が多く、博多
区で大谷派(お東)のお寺は、
一ヶ寺しかなく、他宗では禅
宗と日蓮宗が多いそうだ。

そうぞ。大変なご苦労をされ、しかも淨
慶寺をこんなに立派に再建された、ご
力には、ただただ頭が下げる……。この
お寺には、「有髮(髪の毛がある)の親
鸞像」があるというので、拝見させて
いただく。おそらく室町時代の木像と
のことである。残念ながら詳しいことは
何も分からぬ。謹を、残した
まま、一行は淨慶寺の前住職さんに別
れを告げて、バスに乗り込み、唐津を目指す。



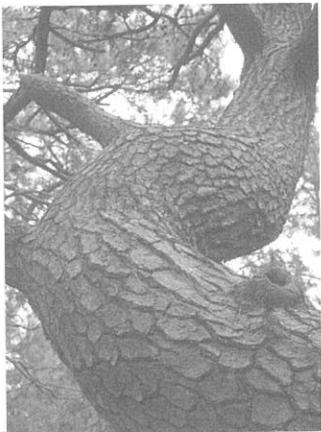
◆淨慶寺の前住職、現住職を囲んで、記念撮影。



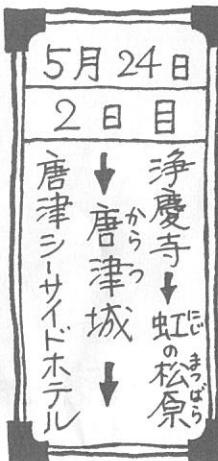
◆髪の長い親鸞聖人は、
はじめて拝見しました……。

ご修復された。とても広く立派な本堂の
丸柱は、宮崎の櫻(さくら)が使用されている。
大塚住職の養母にあたる別住職
さんは、日本で3人目の女性住職なのだ
そうだ。大変なご苦労をされ、しかも淨
慶寺をこんなに立派に再建された、ご
力には、ただただ頭が下げる……。この
お寺には、「有髮(髪の毛がある)の親
鸞像」があるというので、拝見させて
いただく。おそらく室町時代の木像と
のことである。残念ながら詳しいことは
何も分からぬ。謹を、残した
まま、一行は淨慶寺の前住職さんに別
れを告げて、バスに乗り込み、唐津を目指す。

バスを降りて、歩いて松原を抜けて、海に出てみる。宝当神社のある“高島”がすぐ近くに見える。誰もいらない白砂の浜でしばし海風に吹かれ。貝殻を拾う姿があちらこちらに。



浄慶寺からバスで約1時間、虹の松原凸が見えて来た。唐津湾沿岸に広がる、日本三大松原の一つ。幅約500m、長さ4.5kmに渡り、弧状に約100万本のクロマツが続く。途中

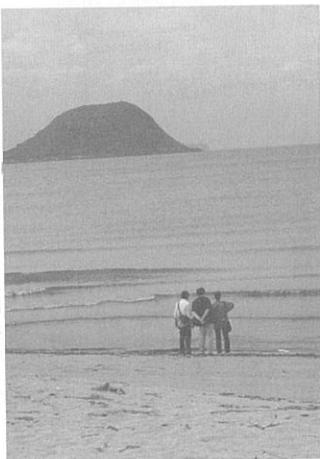


◆唐津城へ文禄4年(1595年)豊臣秀吉の家臣・寺沢広高がこの地に封せられ、慶長7年(1602年)より本格的な築城を行い、6年後に完成了。明治4年(1871年)廢藩置県により、廢城となり、6年後に舞鶴公園として整備・開放された。現在の天守閣は昭和41年(1966年)に復元されたものである。



◆本日の宿、“唐津シーサイド”ホテルと“高徳寺号”

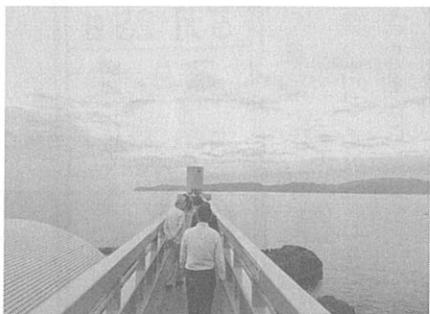
◆玄海灘と高島を臨む！



◆『唐ワニくん』とハイ・チーズ♪



※ 僧侶…仏法を聞いていく仲間。又、仏法を聞く場。



◆玄海海中展望塔…この棧橋。先の建物の中に入り下り下りると海かなか見られる。



唐津リーサイドホテルでの宴は、旅行会最後の夜となり、とて、かなり盛り上がり、楽しい晩餐となつた。恒例の一言と感じたことを語つた。その中で川崎の稱名寺さんの門徒「一ナービ」では全員が思つたことを感じたことを語つた。その方が『お寺は私が忘れないで、大切なことを心に託す』など大切なことを語つた。七ッ釜といつ宝ものを作させてくれる"場"です。と

語られた。私はこの言葉が耳に残れなつた。有縁の方々が集い語り合つ中に"僧侶"といつ宝ものを作らせるのだから

5月25日
3日目
ホテル→玄海 海中展望塔↓

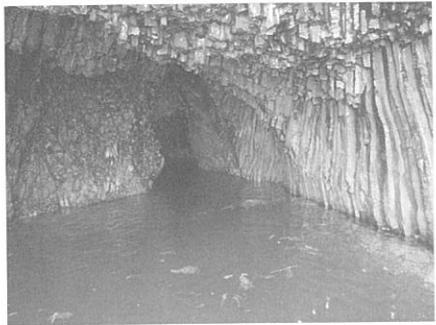


玄武岩の断崖絶壁にまるでアーチのカマドを並べたような海蝕洞窟が「七ッ釜」とある。これは船に乗って海側からしか見ることは出来ない。七ッ釜に向かつ途中、左手に「鷹島」が見える。横から見るとクジラの形をした。



"鷹島"でも良かつたのですが、うか?・そうこうしているう

感いた。部屋の窓からは玄海灘に浮かぶ高島が一望できる。ホテルにチェックインした頃から降り始めた雨は本降りとなり、一晩中降り続いた。しかし、空はかすかに明るさを帯びていて、僅かな期待を持ちながら朝食をとる。新鮮な魚に熱いダシをかけて食べるお茶づけは美味であった。ホテルを8時に出発し、玄海中展望塔へと向かう。雨はほぼ止んでいた。唐津は、家康の"天領"だったので、佐賀の中でも特別な土地のようだ。玄海原発は3:11の時に止まつたままだ。福島第一について、二番目に古いそつだ。途中、道の駅で野菜とくだものを購入する。東京では考えられないくらい安い。しかも新鮮だ。海中展望塔に到着。バスを降りて海沿いの断崖を歩いて海に突き出た栈橋を進み円柱型の建物の螺旋階段を下りていくと、舟円形の窓から魚や貝類(全て自然の生きもの)を見ることが出来る。久々に次山の魚を見た。続いては「七ッ釜」を見に「マリンパル呼子」へ移動する。港から"イカ丸"という船に乗って玄海灘を進んで行く。



◆名物の呼子のいかの活き造り

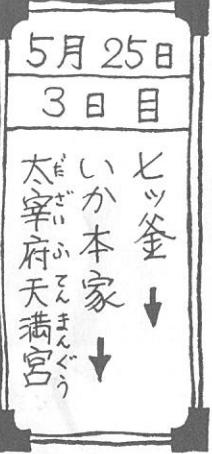


◆鳥居の奥に本殿が見える…。



◆朱色ベースの本殿は「渡バデ」だ。

ちに『ヒツ釜』が見えて来た。船
がスッポリと入ってしまうような大
きさの釜から小さ目のものまで程
良い間隔で並んでいる。岩のタイ
プは様々で、マグマの為せるやさ
である。地球の息吹きを感じ
じるワイルドな造形だ!! 船
長が“イカ丸”を操り釜の中
に船首を突っ込んでくれた。
左の写真の通り先が細くな
っているのである程度の所までし



か行けないが、そこはアロ、ぶつかる寸前で
ストップ。自然の不思議さをじっくりと
間近で堪能させていたしたことが出来た。
玄海灘クルーズを終えた一行は、昼食を
取るためにいか本家へと向かう。この店
は名前の通り呼子の名物“いかの姿
造り”を出してくる。その他にも、いかの
天ぷらやいかしゃつま、等、獲れたての
いかを味めつた。店内からは“呼子大
橋”と海が見えて、視覚的にも満腹にな
った。呼子での目的を果たした一行は
バスで太宰府へ向かった。664年、大和
政権によって置かれた地方行政機関が
「太宰府」である。約500年に渡り政治、經

済、外交の中核として栄えた。『太
宰府天満宮』近くの駐車場に到
着し、そこから歩いて本殿へ向かう。
集合場所と時間を決めて、ブリ
タムとする。朝方の雨が嘘の様に
晴れ渡り、とても暑い。参道の
両側には沢山の土産ものの店々が
並び。その中をぱりぱりと進む。
名物の“梅ヶ枝餅”を売る店に
は行列が出来ている所とそうで
ない所がはっきり分かれている。毎月
25日は、よもぎパンションも販
売されるそうだ。菅原道真公の元
へ時折餅を持参していた老女が、公
が亡くなつた際に、餅に梅の枝を添
えて送つたという故事にならつて“梅
ヶ枝餅”と称されるようになったそ
だ。『かさの家』という店で一箱、ゲット♪



◆心字池にかかる“太鼓橋”。

この太宰府天満宮は全国約1200社にのぼる天満宮の総本宮。平安時代の貴族であり学者、政治家でもあった菅原道真公は延喜元年(901年)、政略によりこの地に左遷され、延喜3年(903年)に亡くなられた。道真公の亡骸を都へ送ろうと牛車で運ぶ途中、牛が座り込み動かなくなつたため、道真公の御心とどうして、その地を墓所に定め、やがて本殿が創建された。美しく豪壮な建築様式は、国

5月25日	太宰府天満宮参拝
3日	羽田空港(解散)
	↓ 福岡空港 ↓



◆無事に羽田空港に到着う~!

スペシャル サンクス 大塚展彦さん 有り難うございました。



の重要文化財に指定されている。蓑葺きの屋根はとても重厚感がある。本殿向かって右手にある梅の木は“懸梅”と呼ばれている。太宰府に左遷された道真公を慕って、京の都から一夜にして懶んで来たという逸話が由来だそうだ。幼少期から学問に秀でた道真公は「学問の神様」として知られ、全國から多くの参拝客が訪れるのだそうだ…。日々、田舎の時間を

過ごした一行は太宰府を後にして、福岡空港へ向かう。大塚住職に、数ある明太子の中どこのお店のものがいいのか尋ねたところ、『椎加榮本舗』を勧められたので空港2Fのショッピングセンターで購入する。(家で食べてみたら大変美味しかったので、ネット通販で“お取りをしてしまいました…。) 手荷物検査のゲートの所で、一人一大塚住職と握手を交わし、別れの挨拶をする。今回初めて福岡県と佐賀県を訪れたが、食べものは旨いし、人は優しくて、2泊3日じゃ足りないと思いつつも、大塚住職、そして護山住職、蒲池窓の伊東家の皆様、そして旅行会に参加された方々、そして留守の間寺を守ってくれた家族…いろんなおかげさんだと感じ謝しております。次回の旅も真心込めて企画する所存ですので、乞うご期待!

今年、2016年の報恩講は

10月22日(土)です。

◆ 法話のご講師は **かい ほうりゅう** 海 法龍 先生です。
(横須賀・長願寺のご住職)

*お通知(ご内従のみ) せらびに 桃号でもご案内いたしますが、ご参詣はどなたでも出来ますので、これをご覧になりましたら、カレンダーや手帳に「高徳寺報恩講」とご記入していただきたく、お願ひ申し上げます。

Syakson's シャクソンズ
ライブパーティー の ご案内

8/21(日) 17:00 ~ 20:30
(16:30 開場・出入自由)

お誘い合わせて、遊びに
来てください。

於: 高徳寺新井白石記念ホールB1
1,000円(お一人様) *小学生以下無料

*当時は“熊本地震”義援金BOXを設置します。ご協力ください!!

→ シャクソンズとは 住職が参加しているお坊さんバンドです。結成16年目♪

Omigaki Onrei

(2016年3月6日(日) 本堂にて)

伊藤 隆介さん

奥野 登子さん

海東 雅子さん

河津 三和子さん

清水 和美さん

菅原 千恵子さん

塙田 和子さん

寛谷 恵美子さん

水越 拓路さん

水越 和子さん

(ご奉仕いただいた方々・あいわえお川順)

おみがきの会
2016年予定

7/3(日)
(御禮は次号で)

9/11(日)

12/25(日)

※終了後『望年会』を開きますので12月のみ
必ず寺にご連絡ください。

◆どの回も奉仕のご参加は自由に出来ます。毎回14時です。

はじめの方、大歓迎です！動きやす、格好でエプロンをご持参ください。

◆お問い合わせはお寺まで。

Kanpa
Onrei

いつも応援していただきまして、有り難く存じます。

神野くららさん
江守敏雄さん
鈴木みさとさん
猪葉千代子さん
鈴木新一さん
金山徳喜さん
匿名希望さん
岩崎英之さん
(いたいた順です)

寺ヨガ & 寺子屋の時間

2016年7月～12月の予定

7/23(土)

9/3(土)

10/1(土)

11/12(土)

12/17(土)

※8月は
お休み
です。

寺ヨガ (500円)

14:00～15:00 / 本堂にて女性化ストラクターに

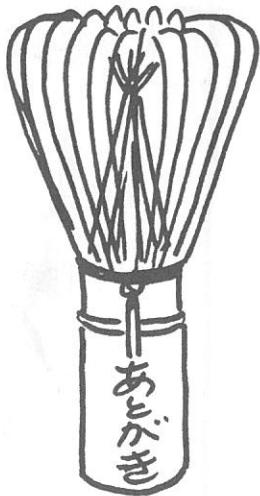
寺子屋の時間 (500円)

指導していただきます♪

15:00～15:30 勤行

15:45～17:30 敬異抄を味わたり、茶話会を(た)

(15) ♦どなたでも参加出来ます。ご参加ください。



私が子どもの頃は夏になるとテレビで“おはげや”やうれいの映画をやっていて、恐いながらも大人と一緒に観てた記憶がある。“やうれい”というと、額に三角の布をつけて、白い着物を着て、髪は長く手は前にだらんと出して、足はよく見えない。そんなのが定番だった。以前あるご住職から“やうれい”的話を聞かせていただいたことがある。

まず、長髪は「過去」を表わすのだそうだ。「ああしておけば良かった。こんな苦じやせかった」と。そして前に伸ばした手は「未来」を表わす。「こうなりたい。あれが欲しい」と。最後に足がよく見えないのは「今」という所を見失している姿だと。その話を聞いた時、「ん?」「やうれいは、この私じゃないだろうか!...」と思った。取り返しのつかない過去にいつまでも拘こだり、今日、縁が尽きて亡くなってしまうかもしれないのに10年後のことを夢見たり。今まで“やうれい”は自分とは関係なし、自分が“やうれい”だなんて考えたこともない。しかし、「今」という所にしつこりと足をつけて立っているだろうか...と考えてみると、つくづく、果たして本当に踏ん張って立っているかな?...となってしまう。自分は、つい何處に立って生きているのだろうかということを、お盆を縁に仏法に聞き尋ねてみたいと思う住職であった。釋義祐

三宝

其の流れ
三宝(さんぼう)に
帰(もどり)りまつらずは
何(なに)をもってか
枉(まが)れるを直(ただ)さん

〒164-0002

東京都中野区上高田

1-2-9

発行日

2016.7.10

発行 真泉大治派
高徳寺

編集 住職 新井義雄

okagesan vol.75

03-3368-6947

FAX 03-3362-8019

HP <http://www.koutokuji.or.jp>

表紙の絵：“唐津くんち”の山車(たぐい)

法語…“三宝”(さんぼう=仏・法・僧のこと)